



魯保仁波

雅

~ 13  
3364  
11



中尾才



皇保仁政源流記



目録

一 所存史所 江戶 海軍

陸軍

海軍

海軍



大正十年八月廿九日  
本大出版部 贈

門 18  
號 3364  
卷 11

高橋以政孫也之孫也

伊藤之孫也海門梅子孫也

の事

所撰物系孫也梅子孫也

高橋の事

高橋之孫也保三氏年十月日辰

高橋之孫也保三氏年十月日辰

大津藩の普請に於て  
人々を以て流罪村より  
出流園田  
方尾越つて中元の日  
松村仙石ト  
平新中解  
中村角太史の  
之の由を記す  
いふ事

同方々々々々々々々々々々々  
比古海をこす  
わすれ  
は接  
らも  
方小  
廣  
の上

石川内宿の城より西へ  
 上河内郡の山崎及び平野  
 相利 志野郡新井の山崎  
 万石の石火之保長つち西宮  
 及寺社多し之利 橋本郡  
 西尾の城より平野に利  
 久本園寺 相利は中より  
 一の山崎より西へ  
 佐倉及町守り 是城あり  
 本郷の山崎及び佐倉より  
 一の山崎より西へ 相利は中より  
 孫喜一の山崎より西へ  
 山崎より西へ 相利は中より  
 人身より西へ 相利は中より  
 山崎より西へ 相利は中より  
 山崎より西へ 相利は中より  
 山崎より西へ 相利は中より  
 山崎より西へ 相利は中より

あまの尾尾身同は月暮の所  
よか即人 移青のりき人 西月  
ふ人 出部喜のり人 同族  
人 石出若一カ 移身 移中人  
町中 年 移身 移身 移身  
身 身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
何りんきバ 一 流 出 移身 移身 移身

北条 正一 記

乃々子 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身  
移身 移身 移身 移身 移身 移身

北条 正一 記



物<sup>で</sup> ~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



作中筋が一體是を述べてゆく  
通して何れも是は新しき  
事なるを以てしるすは  
まゝありし作何れも  
いづれも其邊りなるも  
よきと云ふ大國及び  
是れも其邊りなるも  
よきと云ふ大國及び

多分作中筋は作りの  
善悪は其の如何なるか  
舞臺の如何なるか  
侍の如何なるか  
事なるは作りの如何なるか  
作りの如何なるか  
是れは如何なるか  
是れは如何なるか

弟屋より一何分味も支配  
出部より一毛中商中一科白附病の  
ものもまたや一博よあつて  
あつた味を何の門へあつた味と  
あり一月平伏して出座を  
さぐるゆり西の久保巡格を  
孫を甚だか憐れん海七に一月初  
の晩に合子に中あつた

あまを運し停夜がまゝあつて一十月  
六のちと度りのことけり子資有  
て甲人運少く其あつた神も  
川へ海へおまの江平へつくと  
能く夜をよみけりつて一能く月  
代を其あつたもあつたつてその  
返成を女をあつたあつたあつたあ  
能く一能く一能く

め仕まうい海屋の女を呼あはれ  
い〜さんと連の松の節やあ  
吉年や〜 けらま〜 くるん  
部あを也 勢を節〜  
着を〜 けら〜  
海〜 勢を〜  
を孫や〜 後知念の  
粒の〜 疾の〜  
け人〜 勢を〜  
なま〜 松の節〜  
〜 子あはれ仕まあは  
節やあぬ〜 着は〜  
百〜 勢の〜  
又孫や大候〜 勢〜  
ち〜 勢〜 けら〜  
〜 勢〜 けら〜



久々美及摩の...  
云々何りぬ...  
中...  
抑...  
整...  
松...  
野...

あ...  
月...  
の...  
ま...  
す...  
あ...  
ん...  
極...



戸山...  
馬...  
中...  
事...  
次...  
車...  
年...  
次...  
車...  
年...

ん...  
新...  
名...  
所...  
小...  
年...  
年...  
年...  
年...















うらみん 終つた沖きり

日のびいさふうし 信子 合て母

かーふたりくし 之派を人くま

てあふたふうし 信子くを権り

とやーをあふくし 二にむり

まきしてても あのみをわり

あふのうりし せふん 殺り

の作らふと 孫を捕りて

うらみん 終つたあふのあふ

うらみん 終つたあふのあふ

合極礼の人をうりていむ 林布

あつたあふのあふ 入る年かき

信子あふのあふ 信子あふ

あふのあふのあふ 信子あふ

あふのあふのあふ 信子あふ

あふのあふのあふ 信子あふ



